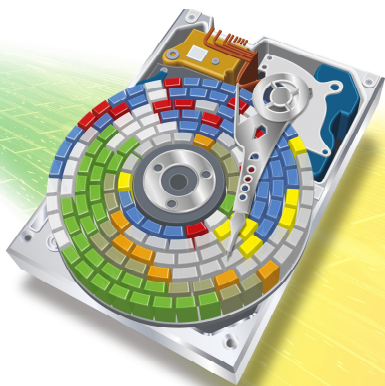


# サーバ用デフラグツール LB デフラグワークス3 Server

## 利用ガイド



『LB デフラグ ワークス 3 Server』のプログラムと利用ガイドは、著作権法で保護された著作物であり、その全部あるいは一部を株式会社ライフボートの事前の明示的な許可なく複製したり、転送したり、格納したり、他のコンピュータ用に変換したり、あるいは他の言語に翻訳したりすると、著作権の侵害になります。

## 商標

IBM は、IBM Corporation の登録商標、OS/2、Personal System/2、AT、XT、PC はそれぞれ同社の商標です。Microsoft、Windows は Microsoft Corporation の登録商標です。その他の商標は、それぞれ該当する会社が所有する登録商標または商標です。

## 注意

この利用ガイドに記載されている情報は、予告無しに変更されることがあります。株式会社ライフボートは、本利用ガイドあるいはプログラムに記載されている内容に対していかなる誤りが含まれる場合にも、一切の保証を行いません。

## EDITION

February 2009

Copyright (C) 2005-2009 mst software GmbH

All rights reserved.

Printed in Japan

## PUBLISHED BY

株式会社ライフボート

東京都千代田区神田神保町 2-2-34

ホームページ: <http://www.lifeboat.jp/>

# 目次

はじめに .....	4
第1章 LB デフラグ ワークス 3 とは.....	5
1-1 主な機能.....	5
1-2 動作環境.....	11
1-3 注意事項.....	12
第2章 インストール/アンインストール.....	13
2-1 インストール .....	13
2-2 管理コンソールのインストール .....	17
2-3 アンインストール.....	21
第3章 起動方法とライセンスキーの登録.....	22
3-1 LB デフラグ ワークス 3 Server の起動方法.....	22
3-2 ライセンスキーの登録.....	23
3-3 ウィザードによる初期設定 .....	24
第4章 LB デフラグ ワークス 3 Server の使い方 .....	26
4-1 基本的な考え方 .....	26
4-2 ユーザ インターフェース.....	26
4-3 ツールバー.....	27
4-4 ドライブの分析 .....	28
4-5 ドライブの検査 .....	29
4-6 ディスクの手動デフラグ .....	38
4-7 モニタリング モード.....	39
4-8 設定について .....	40
4-9 リモート PC の登録と接続(Pro 版/Server 版).....	45
4-10 使用上の注意点.....	48

## はじめに

この度は、LB デフラグ ワークス3 Serverをご購入いただき、誠にありがとうございます。この利用ガイドには、本製品のインストールと製品登録を正常に行うまでの方法及び LB デフラグ ワークス 3 Serverの機能について記載されています。また、本製品の詳細については、ヘルプに記載されている内容も合わせてご参照ください。

また、この利用ガイドは、本製品作成時のソフトウェア及びハードウェアの情報に基づき作成されています。その後のソフトウェアのバージョンアップ等により、本ガイドの記載内容とソフトウェアに搭載されている機能が異なっている場合がありますのでご了承ください。

株式会社ライフポート

## 第1章 LB デフラグ ワークス 3 とは

---

「LB デフラグ ワークス 3」は、ファイルの書込みなどのデータ変更を常時監視して、変更直後に自動的にデフラグすることにより、断片化の発生を最小限に止める「プロアクティブ・テクノロジー（事前予防技術）」を利用したデフラグ ソフトウェアです。デフラグは非常に時間がかかるため、業務をストップして行う、深夜の業務時間外で実行させるなど、大変な作業になりますが、断片化を事前に防ぐことにより、容易に PC を最適な状態に保つことが可能になります。

「LB デフラグ ワークス 3」には、通常版に加えてネットワークに対応した「LB デフラグ ワークス 3 Pro」と、サーバ OS に対応した「LB デフラグ ワークス 3 Server」の 3 製品があります。「LB デフラグ ワークス 3 Pro」及び「LB デフラグ ワークス 3 Server」では、ネットワーク上に接続されている他の PC の状況を把握して、解析、デフラグの実行などが可能です。また、サーバ OS でデフラグを実行する場合には、「LB デフラグ ワークス 3 Server」を使用する必要があります。

### 1-1 主な機能

LB デフラグ ワークス 3 Server は、以下の機能を備えています。

#### プロアクティブ・テクノロジー

サービスプログラム（常駐型プログラム）によりファイルの書込み/削除などのデータ変更を常時監視して、新しいファイルや変更されたファイルが見つかったら、ファイルのチェックリストに追加します。PC の負荷が高い状態ではなく、処理能力に余裕が充分あるときに、リスト上のファイルを解析してデフラグを行い、絶えずハードディスクのデータを最適状態に保つ技術です。Windows の起動と同時に常駐し監視・デフラグし始めますので、断片化の発生を最小限に止め、PC を最適な状態に保つことが可能になります。

### 2つのデフラグモード(自動モード/手動モード)

- 自動モード: プロアクティブ・テクノロジーによりドライブ上のデータの変更を常時監視し自動デフラグを行うモードです。バックグラウンドで自動的にデフラグを行います。
- 手動モード: 手動で、ドライブを解析したり、内容の表示をしたり、デフラグを開始したりすることができます。

### 3種類のデフラグ方式

「クイックデフラグ」、「スマートデフラグ」、「スマートデフラグ プラス」の3種類のデフラグ方式をサポートしています。

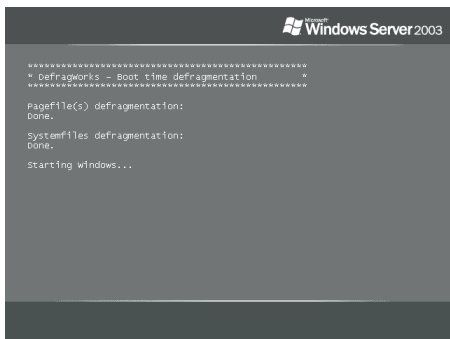
「クイックデフラグ」は、単純に高速でデフラグ処理を行います。

「スマートデフラグ」では、デフラグ後にファイルを最適な位置に移動してアクセスを早くします。

「スマートデフラグ プラス」では、ファイルの後に空きスペースを確保してファイルの再断片化を抑えるなどの異なる処理を行います。

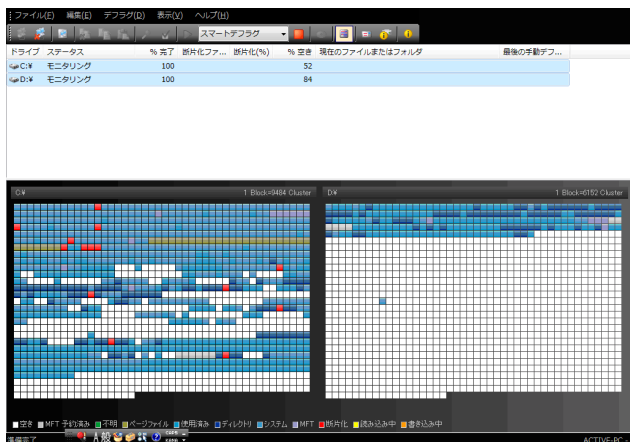
### ブートタイム・デフラグ

システム起動時にデフラグを行います。Windows の起動前に行うので、システムファイルのデフラグが可能となります。Windows の起動に必要なファイル(例: ページファイル、ハイバネーションファイルなど)など、Windows の実行中にはデフラグできないファイルまでデフラグでき、システムの更なるパフォーマンスを確保できます。



## クラスタビューと複数表示モード

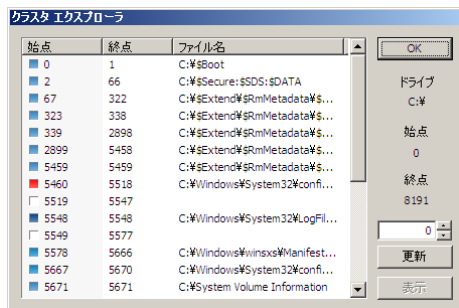
使用済みクラスタや、断片化したファイル、現在デフラグ中のクラスタなどを色分けしたブロックで表示します。複数表示モードでは、画面が分割され、選択した全ドライブのクラスタビューが同時に表示されます。



## デフラグの同時処理

選択したドライブのデフラグを同時に実行することが可能です。分析が終了したドライブからデフラグが開始されます。

## クラスタ エクスプローラ

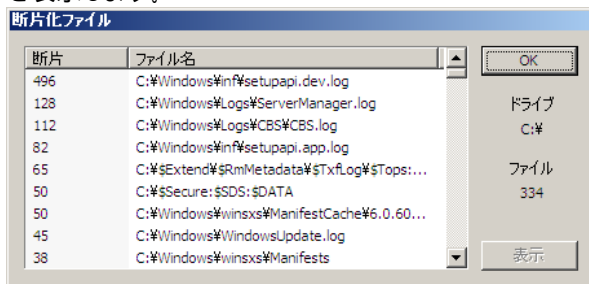


各ファイルが物理的にどのクラスタ位置に配置されているか、ドライブ内容を解析して表示します。また、クラスタビュー上で確認したい位置のブロックをクリックすると、ファイル名などの情報を表示します。

## 第1章 LB デフラグ ワークス3とは

### 断片化ファイル ウィンドウ

選択しているボリュームの断片化したファイルの一覧と、その断片数を表示します。



### 3種類のスキン

「標準」、「シェード」、「モダン」の3種のスキンが用意されています。

### ドライブ情報



選択しているドライブ(ボリューム)の詳細な情報が表示されます。

### ウィザードによる簡単設定

ウィザード形式でデフラグ処理の設定を簡単に行えます。

### パフォーマンスガード

入出力のスループットをモニターして、他のアプリケーションの利用などによりスループットが高くなった場合、デフラグや解析処理を中止します。ディスクリソースの使用状況をチェックして、他のアプリケーションに対して一定量の使用可能時間を保証することで、デフラグにより通常のアプリケーションのパフォーマンスが低下してしまうことを防ぎます。

### バッテリーガード

ノート PC やサーバに対応し、バッテリー使用中や UPS 使用中に解析作業とデフラグを休止して、電力の消費を抑えます。

### USB などリムーバブルメディアに対応

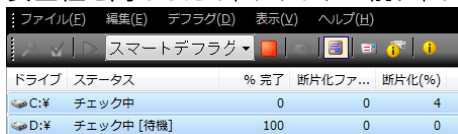
MO や ZIP、フロッピーディスクなどのリムーバブルディスクのデフラグを可能なように設定することができます。FAT フォーマットが採用されているものであれば、USB メモリなどの非ディスクメディアでもデフラグを行うことができます。

### デフラグ禁止ドライブの設定(自動モードの解除)

頻繁にアクセス/書き換えが行われるデータベースが置かれたドライブなど、通常の稼働中にデフラグするのは危険なドライブについて、永続的に自動モードでの自動デフラグを行わないように設定することができます。

### ディスク検査

デフラグでデータを移動する際に、ディスク上で正常に書き込みできないエリアがあると、ファイルが壊れてしまう恐れがあります。これを避け安全性を高めるため、デフラグの前に、ディスクのチェックができます。



The screenshot shows a software window titled "ファイル(F) 編集(E) デフラグ(D) 表示(V) ヘルプ(H)". The main menu is "スマートデフラグ". Below it is a table with the following data:

ドライブ	ステータス	% 完了	断片化ファ...	断片化(%)
C:¥	チェック中	0	0	4
D:¥	チェック中 [待機]	100	0	0

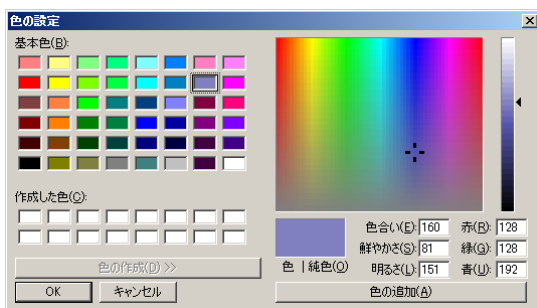
### モニタリング

自動モードで監視中のドライブは、ツールバー上のシステムトレイに表示されるアイコンの状態をモニタリングになっていることを確認できます。設定ウィザードで「Windows 起動時に、自動デフラグを開始する」の設定を行うと、いちいちユーザインターフェースを開き、デフラグを実行する必要はありません。



ツールバー上にアイコンを表示させるには、「設定」画面の「アプリケーション」タブにある「スタートアップ」項目で「Windowsの起動時に自動的に実行」と「システムトレイに最小化して開始」にチェックを入れます。

### 配色変更



クラスタビューの各ブロックの配色を自分の見やすい配色に変更することができます。

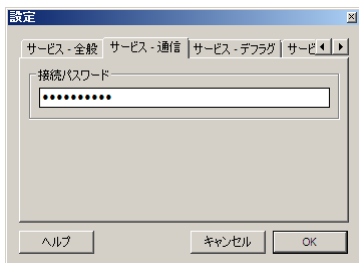
### 強力なコマンドライン ツール

コマンドライン ツールでデフラグ処理を制御できます。

### スケジューリング

コマンドライン オプションを使用して細かなスケジューリングを行うことができます。

## パスワード設定



パスワードを設定することにより、権限を持たないユーザの利用を制限できます。

ネットワーク デフラグ(Pro 版/Server 版)  
プロアクティブな自動デフラグに加え、ネットワーク ユーザインターフェースを通して、ローカル PC やネットワーク上の PC へアクセスして、遠隔操作で解析やデフラグを実行することができます。

## 1-2 動作環境

「LB デフラグ ワークス 3 Server」の動作環境として必要な最小の構成です。この構成より上位の構成の環境をお勧めします。

対応機種：PC/AT 互換機、NEC NX シリーズ

(NEC PC - 9800、PC - 9821 シリーズ、Macintosh では動作しません)

対応 CPU：Pentium 200MHz 以上のインテル互換の CPU

(Windows Vista の場合は 1GHz 以上)

メモリ：128MB 以上(256MB 以上を推奨、Vista の場合は 1GB 以上)

ハードディスクの空き容量：15MB 以上

対応 OS：日本語 Windows 2000 Server SP4 以降、

日本語 Windows Server 2003/2008

32 ビット版/64 ビット版

(管理コンソールは、

日本語 Windows 2000 SP4 以降/XP/Vista)

### 1-3 注意事項

---

「LB デフラグ ワークス3 Server」をご使用になる前に、下記の注意事項をご確認ください。

圧縮や暗号化されたハードディスクでは対応できない場合があります。

最適化を実行する前に、ハードディスクに問題が無いことを予めご確認ください。

低速なビデオカードをご利用の場合、プログラムがスムーズに動作せず、インタフェースの反応が悪くなる場合があります。この場合、クラスタビューを無効にして動作させると、改善いたします。

SSD(Solid State Drive)はハードディスクとは異なり、書き込み回数に上限がありますので、デフラグの実行をお勧めしません。

## 第2章 インストール/アンインストール

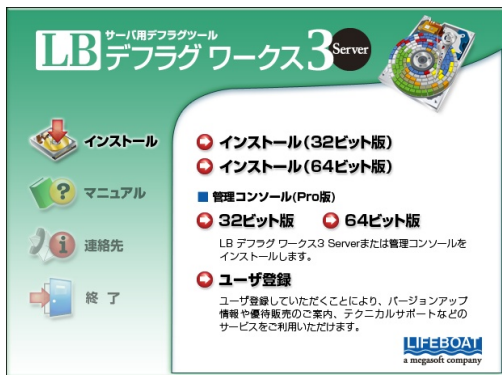
この章では、「LB デフラグ ワークス 3 Server」のインストール及びアンインストールの方法について説明しています。

インストールを開始する前に、コンピュータ上の開いているすべてのプログラムを閉じてください。

### 2-1 インストール

LB デフラグ ワークス Server のインストールは、製品 CD から実行します。

- (1) LB デフラグ ワークス 3 Server をインストールするには、製品 CD を CD-ROM ドライブに挿入します。



製品 CD をドライブに挿入した際に、「自動再生」ダイアログが表示された場合には、[Autorun.exe の実行]を選択してください。

## 第2章 インストール/アンインストール

### 【インストール画面が表示されない場合】

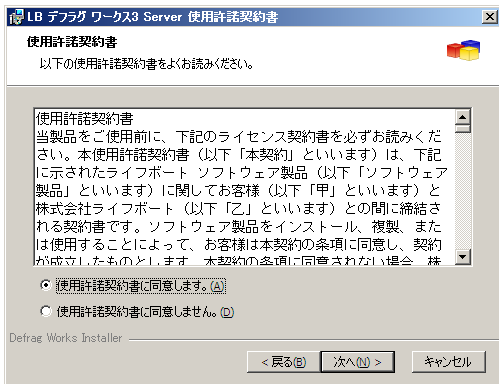
製品CDをコンピュータのCD-ROMドライブに挿入しても、自動実行されないことがあります。

製品CDからインストールを開始するには

1. エクスプローラで製品CDの内容を表示します。
  2. Autorun.exe ファイルをダブルクリックします。
- (2) インストール画面で「インストール(32ビット版)」または「インストール(64ビット版)」をクリックします。
- (3) セットアップ ウィザードが表示されますので、「次へ」ボタンをクリックします。

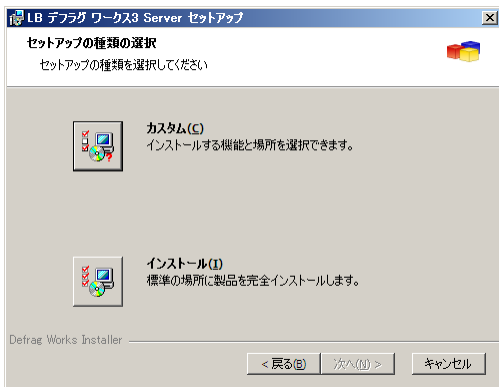


- (4) 使用許諾契約書が表示されますので、よくお読みになって「使用許諾契約書に同意します」を選択して、「次へ」ボタンをクリックします。



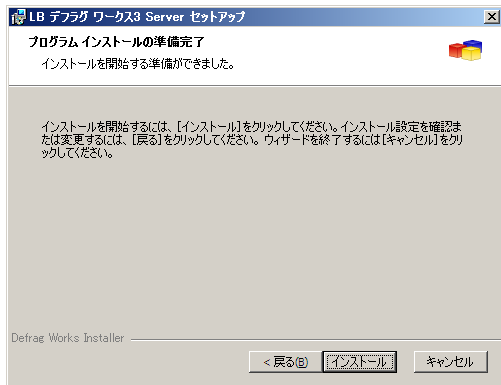
「使用許諾契約書に同意しません」を選択した場合には、インストールは中断されます。

- (5) 『セットアップの種類を選択』画面では、通常「インストール」ボタンをクリックします。インストール先のフォルダを変更したい場合には、「カスタム」ボタンをクリックします。

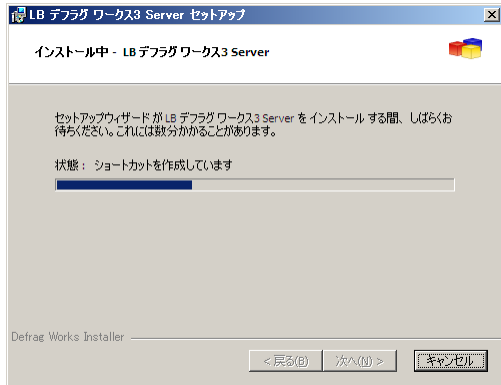


## 第2章 インストール/アンインストール

- (6) インストールを開始する準備ができましたので、「インストール」ボタンをクリックします。



- (7) インストールが開始されて、ファイルのコピーが始まります。



- (8) インストールが完了すると、次の画面が表示されます。



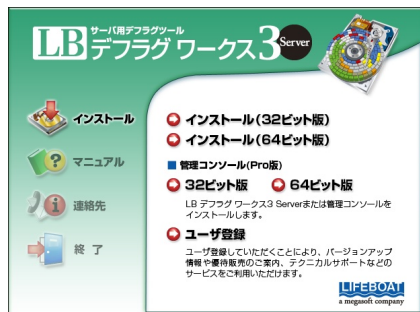
「LB デフラグ ワークス 3 Serverを起動する」にチェックが入った状態で「完了」ボタンをクリックすると、この後すぐに「LB デフラグ ワークス 3 Server」のプログラムが起動されます。

## 2-2 管理コンソールのインストール

クライアント コンピュータに管理コンソールをインストールして、LB デフラグ ワークス Server または LB デフラグ ワークス Pro がインストールされたコンピュータをリモートで操作することが可能です。

- (1) 管理コンソールをインストールするには、製品 CD を CD-ROM ドライブに挿入します。

製品 CD をドライブに挿入した際に、「自動再生」ダイアログが表示された場合には、[Autorun.exe の実行]を選択してください。

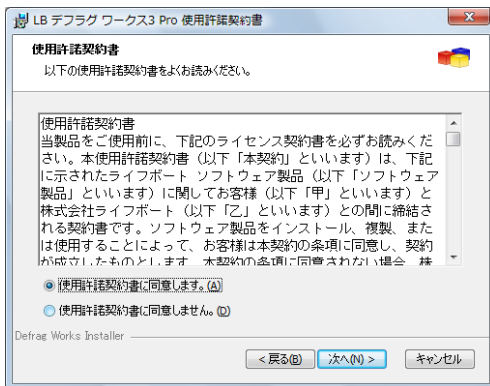


## 第2章 インストール/アンインストール

- (2) インストール画面で「管理コンソール(Pro 版)」の「32 ビット版」または「64 ビット版」をクリックします。
- (3) セットアップ ウィザードが表示されますので、「次へ」ボタンをクリックします。



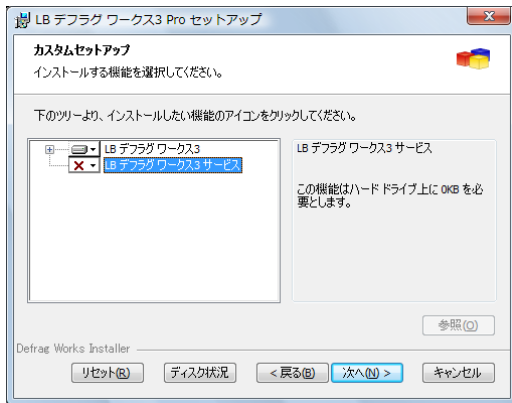
- (4) 使用許諾契約書が表示されますので、よくお読みになって「使用許諾契約書に同意します」を選択して、「次へ」ボタンをクリックします。



- (5) 『セットアップの種類を選択』画面では、「カスタム」ボタンをクリックします。

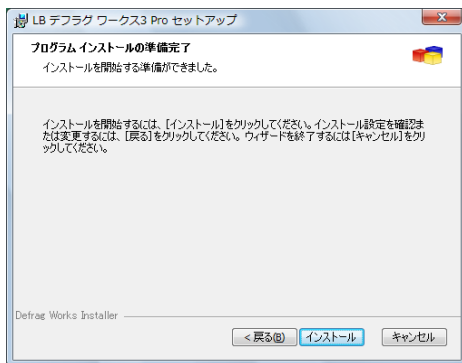


- (6) 『カスタムセットアップ』画面では、「LB デフラグ ワークス 3 サービス」の機能をインストールしないように、下記のように変更して「次へ」ボタンをクリックします。



## 第2章 インストール/アンインストール

- (7) インストールを開始する準備ができましたので、「インストール」ボタンをクリックします。



Windows Vista 環境で「ユーザー アカウント制御」ダイアログが表示された場合には、「続行」を選択してください。

- (8) インストールが完了すると、次の画面が表示されます。

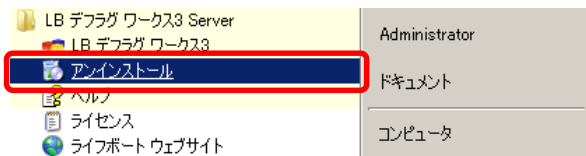


「LB デフラグ ワークス 3 Pro を起動する」にチェックが入った状態で「完了」ボタンをクリックすると、この後すぐに「LB デフラグ ワークス 3 Pro」の管理コンソール プログラムが起動されます。

## 2-3 アンインストール

「LB デフラグ ワークス 3 Server」をアンインストールするは、次の手順で「LB デフラグ ワークス 3 Server」の設定を変更してから、アンインストールを実行します。

- (1) 「LB デフラグ ワークス 3 Server」を起動します。
- (2) 「ヘルプ」メニューの「設定ウィザード」を実行します。
- (3) ステップ 3/5 の「システム起動するたびに、ブートタイムデフラグを実行する」と、ステップ 4/5 の「Windows の起動時に、自動デフラグを開始する」のチェックを外して、ウィザードを完了します。
- (4) 「LB デフラグ ワークス 3 Server」を終了します。
- (5) 「スタート」メニューより、「すべてのプログラム」、「LB デフラグ ワークス 3 Server」の順に選択します。
- (6) 次のように「アンインストール」を選択します。



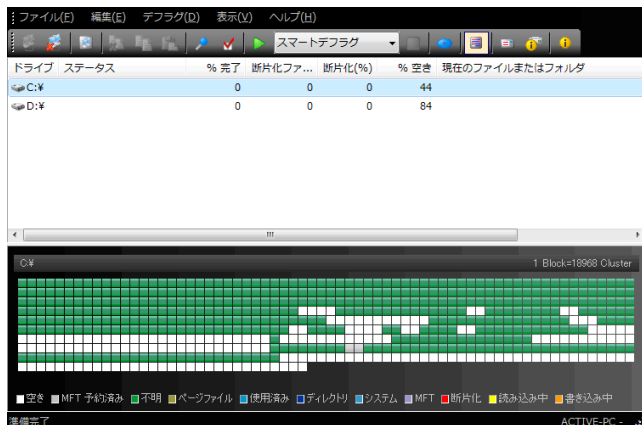
- (7) アンインストールのメッセージが出ますので、指示に従ってアンインストールを実行します。

## 第3章 起動方法とライセンスキーの登録

この章では、LB デフラグ ワークス 3 Server の起動方法とライセンスキーの登録、ウィザードによる初期設定についてご説明します。

### 3-1 LB デフラグ ワークス 3 Server の起動方法

LB デフラグ ワークス 3 Server の本体アプリケーション(管理コンソール)を起動するには、「スタート」メニューから「すべてのプログラム」→「LB デフラグ ワークス 3 Server」→「LB デフラグ ワークス 3」をクリックします。



「設定」画面の「アプリケーション」タブにある「Windows の起動時に自動的に実行」と「システムトレイに最小化して開始」をチェックした場合には、次の Windows 起動時から LB デフラグ ワークス 3 Server が自動的に起動して、タスクトレイにアイコンが表示されるようになります。

(タスクトレイに表示されるアイコン)

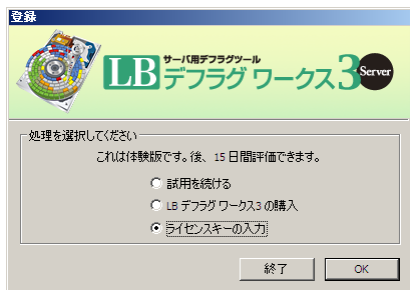


## 3-2 ライセンスキーの登録

LB デフラグ ワークス 3 Server は初回起動時には体験版として起動します。体験版は、すべての機能を15日間使用することができます。

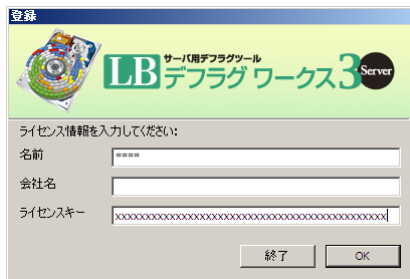
製品版として使用するには、起動時に表示される「登録」画面でライセンスキーを入力する必要があります。

- (1) 「登録」画面の「ライセンスキーの入力」を選択して、「OK」ボタンをクリックします。



- (2) 「名前」と「ライセンスキー」を間違えないように入力します。

「OK」ボタンでライセンス情報が登録されます。



名前は必ず入力してください。

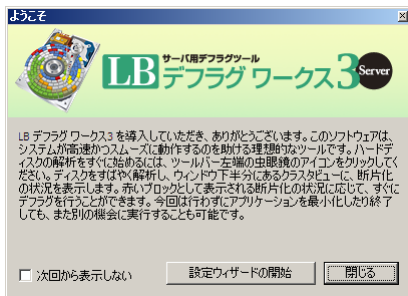
ライセンスキーは、製品 CD 中の『LicenseKey.txt』に記載されています。このファイルに記載されているライセンスキーを「ライセンスキー」欄にコピー&貼り付けしてください。

ダウンロード版は、ご購入時の電子メールにライセンスキーが記載されています。

## 第3章 起動方法とライセンスキーの登録

### 3-3 ウィザードによる初期設定

ライセンス情報の登録が完了すると、「ようこそ」画面が表示されます。

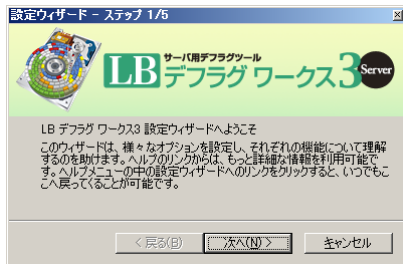


LB デフラグ ワークス 3 Pro の初期設定を行うために、「設定ウィザード」ボタンをクリックします。

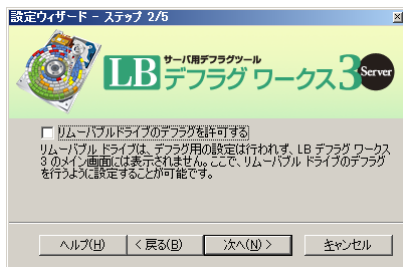
後で設定を行う場合には、「ヘルプ」メニューの「設定ウィザード」を選択してください。

次回から、この画面を表示する必要が無い場合には、「次回から表示しない」にチェックを入れてください。

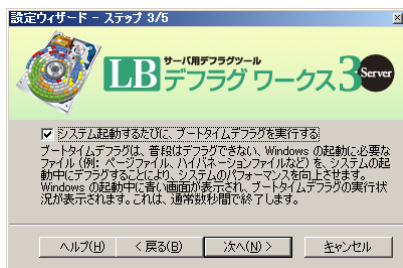
ステップ1: この画面では、そのまま「次へ」ボタンをクリックします。



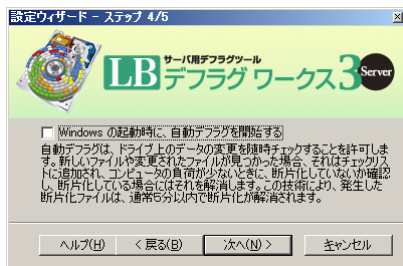
ステップ2: USB 接続の外付けハードディスクなどのリムーバブルドライブのデフラグを実行する場合には、「リムーバブルドライブのデフラグを許可する」にチェックを入れて、「次へ」ボタンをクリックします。



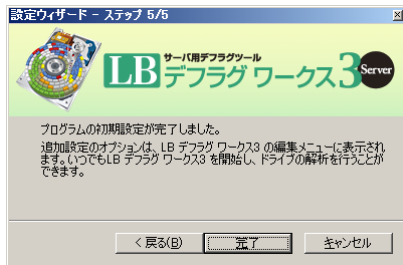
ステップ 3: システム起動時に Windows のページファイルやハイバネーションファイルなどのデフラグを実行したい場合には、「システム起動するたびに、ブートタイムデフラグを実行する」にチェックを入れて、「次へ」ボタンをクリックします。



ステップ 4: ディスクアクセスの空き時間にバックグラウンドで自動的にデフラグを実行したい場合には、「Windows の起動時に、自動デフラグを開始する」にチェックを入れて、「次へ」ボタンをクリックします。



ステップ 5: 「完了」ボタンをクリックして、設定ウィザードを終了します。



## 第4章 LB デフラグ ワークス 3 Server の使い方

---

### 4-1 基本的な考え方

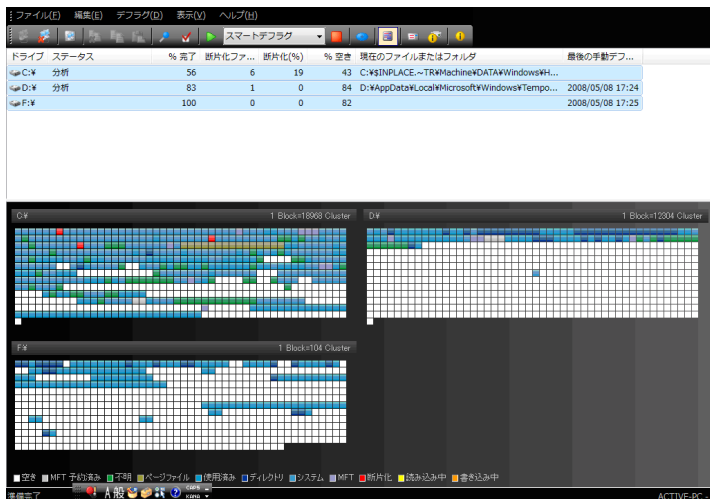
LB デフラグ ワークス 3 Server は、設定ウィザードのステップ 4/5 で「Windows の起動時に、自動デフラグを開始する」の設定を行うと、次の Windows 起動時からサービスが起動し、バックグラウンドで「パフォーマンスガード」機能に基づいてモニタリングモードに入り、ディスクの解析そしてデフラグを開始します。PC を使用すればするほどデフラグが進み、ディスクがクリーンな状態になります。また、ドライブ上のデータの変更を常時監視していますので、新しいファイルや、変更されたファイルが見つかると、ファイルのチェックリストに追加されます。PC の負荷が高い状態ではなく、処理能力に余裕が充分にあるときに、リスト上のファイルを解析し必要であればデフラグを行います。

従って「LB デフラグ ワークス 3 Server」でこの設定を行えば、通常何もなくても自動的にディスクはデフラグされていますので、特に意識せず、常に最適な状態で PC をお使いいただくことができます。

ディスクの状態などを見たり、手動でデフラグを実行したりしたい時には、アプリケーションを起動します。

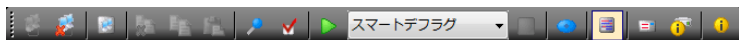
### 4-2 ユーザ インターフェース

最上部のメインメニューからは、数々の機能にアクセスすることができます。ツールバー上のボタンからは、ディスクドライブの解析や、デフラグの開始や停止、デフラグ方式の変更などが行えます。コンピュータ上のアクセス可能なドライブは、画面上部に一覧表示されます。画面下半分の小さなブロックがたくさん表示されているのは、クラスタビューです。各ブロックはディスク上のクラスタの集まりを示しています。画面一番下には、各ブロックに表示される色の意味を示す凡例が表示されています。



## 4-3 ツールバー

ツールバーには、分析やディスク検査、デフラグの開始と停止、クラスタビューの表示、断片化ファイルやドライブの情報ウィンドウ、あるいはバージョン情報を表示するなどの、基本的な機能のボタンが表示されています。Server 版及び Pro 版では、リモート PC への接続/切断、ネットワークインタフェースの表示などのボタンが追加されています。



### ボタンの概要

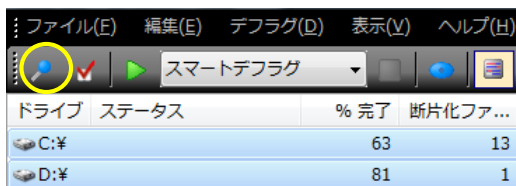
	接続		貼り付け		モニター開始
	切断		ドライブ分析		クラスタビュー
	ネット表示		ディスク検査		断片化ファイル
	切り取り		デフラグ開始		ドライブ情報
	コピー		停止		バージョン情報

## 4-4 ドライブの分析

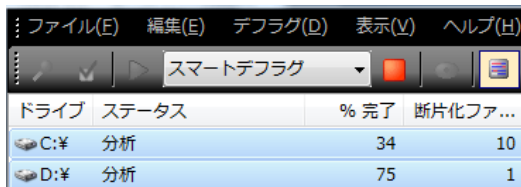
- (1) 「LB デフラグ ワークス 3 Server」を起動します。
- (2) 分析したいドライブが「モニタリング」状態のときには、ツールバーの「停止」ボタン(赤い四角のアイコン)をクリックして、モニタリングを停止します。



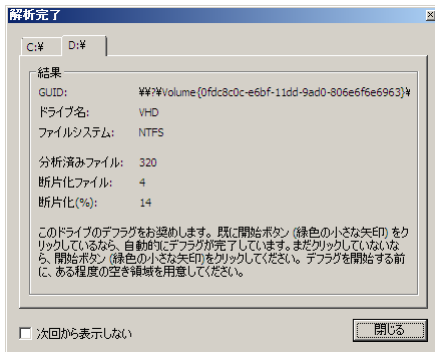
- (3) ステータスに何も表示されていない場合は、停止状態を意味します。停止状態であることを確認して、ツールバーの「分析」ボタン(虫眼鏡のアイコン)をクリックします。



- (4) ステータスが「分析」に変わり、ドライブの分析が開始されます。



- (5) 分析の結果は、次のような「解析完了」ダイアログとクラスタビュー内に表示されます。



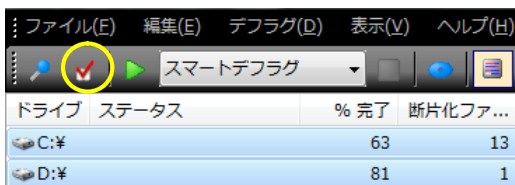
## 4-5 ドライブの検査

デフラグを実行する前には、必ずドライブの検査を行って、ドライブに問題が無いことを確認するようにしてください。ドライブに問題がある状態でデフラグを実行すると、予期せぬ事態が発生したり、重要なデータを破損したりしてしまう可能性があります。

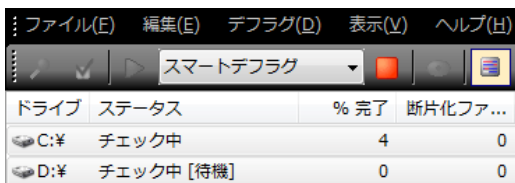
- (1) 「LB デフラグ ワークス 3 Server」を起動します。
- (2) 検査したいドライブが「モニタリング」状態のときには、ツールバーの「停止」ボタン (赤い四角のアイコン) をクリックして、モニタリングを停止します。



- (3) ステータスに何も表示されていない場合は、停止状態を意味します。停止状態であることを確認して、ツールバーの「チェック」ボタン(チェックボックスのアイコン)をクリックします。



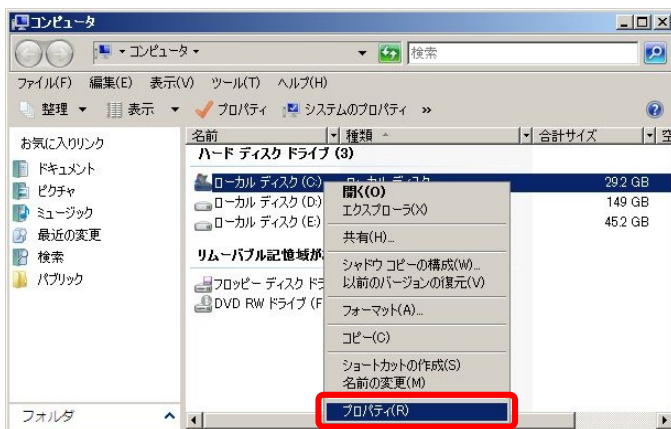
- (4) ステータスが「チェック中」に変わり、ドライブの検査が開始されます。



- (5) ステータスに「障害」と表示された場合には、ドライブに問題があることを示しています。Windows のエラーチェックを実行して、ドライブの問題を修復してください。

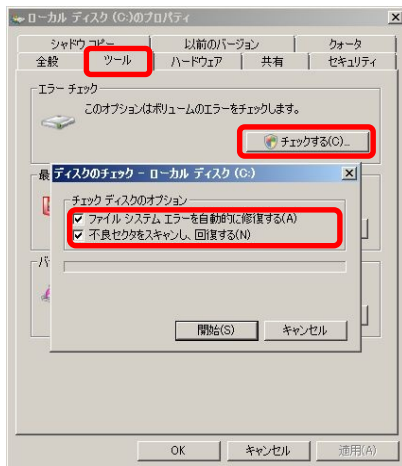
## [Windows Server 2008 をご使用の場合]

- (1) [スタート]メニューから[コンピュータ]を開き、障害が検出されたドライブを右クリックして、メニューから[プロパティ]を選択します。



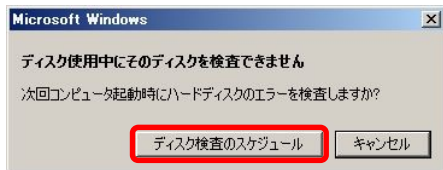
- (2) [ツール]タブを選択し、[チェックする]ボタンをクリックします。

初めてエラーチェックを実行する場合には、「チェックディスクのオプション」画面で、二つのチェックボックスの両方にチェックを入れて、[開始]ボタンをクリックします。何回かエラーチェックを実行している場合には、「ファイル システム エラーを自動的に修復する」のオプションのみ有効にして、[開始]ボタンをクリックします。



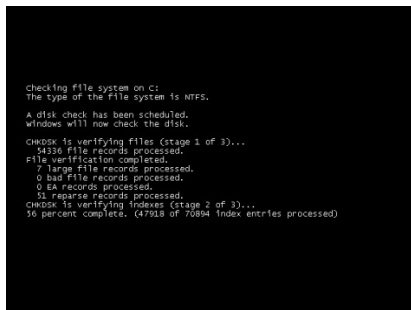
## 第4章 LB デフラグ ワークス 3 Server の使い方

対象ドライブが使用中の場合には、次の画面が表示され、再起動後にエラーチェックが行われます。

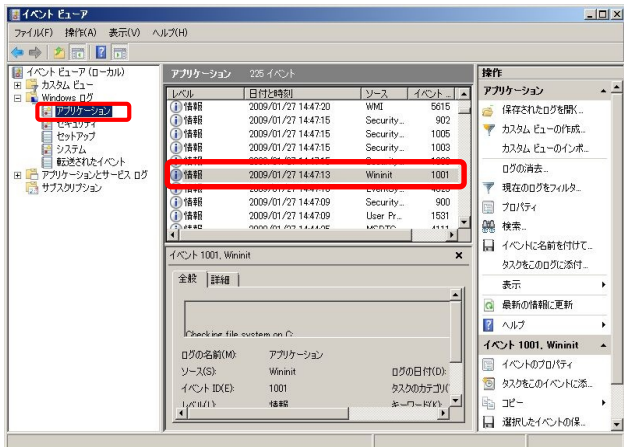


[ディスク検査のスケジュール]をクリックして、コンピュータを再起動します。

Windows 起動時に次の画面が表示され、ドライブのエラーチェックが実行されます。エラーチェックが完了すると自動的に再起動します。

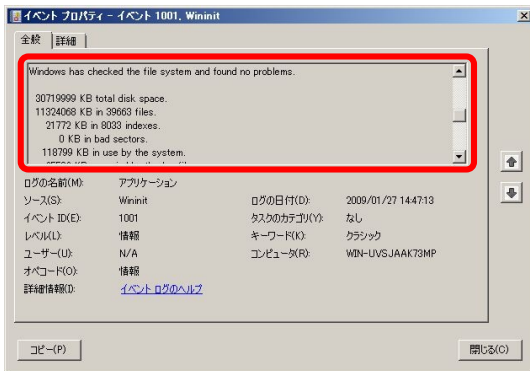


- (3) エラーチェックの結果は、イベント ビューアのアプリケーション ログに記録されます。Windows が起動したら、[スタート]メニューから [管理ツール]にある[イベント ビューア]を選択してください。イベント ビューアが表示されたら、[Windows ログ] - [アプリケーション]を選択します。右側にログの一覧が表示されるので、ソース欄に [Wininit]と表示されている最新のログをダブルクリックして表示させます。



日付を確認し、直前に実行されたログが確認してください。

- (4) イベントの説明欄で「Windows has checked the file system and found no problems」と記載されているか確認してください。次に、「Cleaning up ...」表示が無いことを確認してください。「Cleaning up ...」表示があるときには、「ファイル システム エラーを自動的に修復する」のみにチェックして、「Cleaning up ...」表示が無くなるまで、エラーチェックを何回か繰り返してください。



## 第4章 LB デフラグ ワークス 3 Server の使い方 (表示例)

-----  
Checking file system on c:

... (中略)

Windows has checked the file system and found no problems.

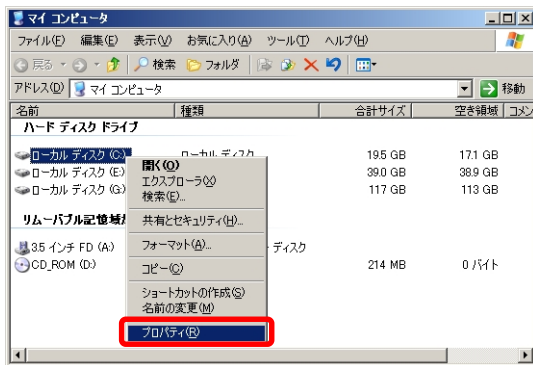
\*\*\*\* KB total disk space. (中略)

0 KB in bad sectors. (以下略)

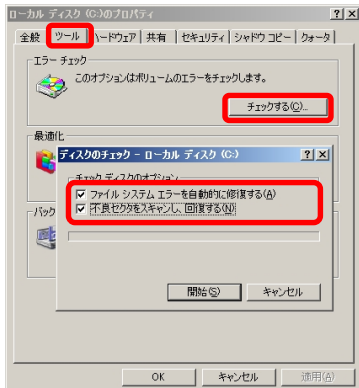
-----

[Windows Server 2003/Windows 2000 Server をご使用の場合]

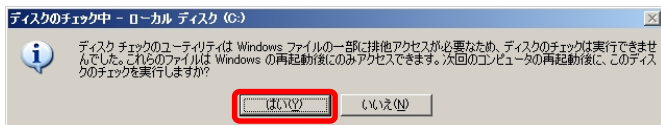
- (1) [マイ コンピュータ]を開き、障害が検出されたドライブを右クリックして、メニューから[プロパティ]を選択します。



- (2) [ツール]タブを選択し、[チェックする]ボタンをクリックします。  
初めてエラーチェックを実行する場合には、「チェック ディスクのオプション」画面で、二つのチェックボックスの両方にチェックを入れて、[開始]ボタンをクリックします。  
何回かエラーチェックを実行している場合には、「ファイル システムエラーを自動的に修復する」のオプションのみ有効にして、[開始]ボタンをクリックします。

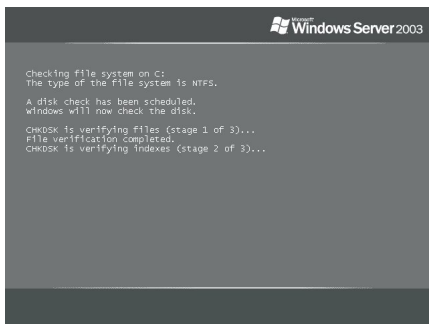


対象ドライブが使用中の場合には、次の画面が表示され、再起動後にエラーチェックが行われます。



[はい]をクリックして、コンピュータを再起動します。

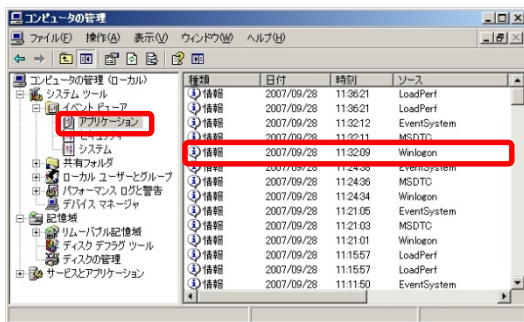
Windows 起動時に次の画面が表示され、ドライブのエラーチェックが実行されます。完了すると自動的に再起動します。



## 第4章 LB デフラグ ワークス 3 Server の使い方

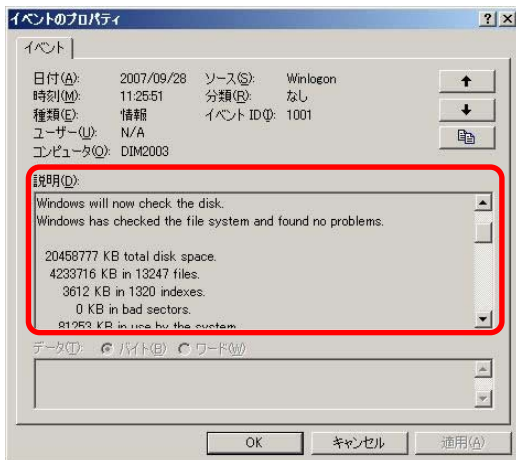
- (3) エラーチェックの結果は、イベント ビューアのアプリケーション ログに記録されます。Windows が起動したら、[マイ コンピュータ]を右クリックして、[管理]を選択してください。

[コンピュータの管理]画面が表示されるので、[イベント ビューア] - [アプリケーション]を選択します。右側にログの一覧が表示されるので、ソース欄に[Winlogon]と表示されている最新のログをダブルクリックして表示させます。



日付を確認し、直前に実行されたログが確認してください。

- (4) イベントの説明欄で「Windows has checked the file system and found no problems.」と記載されているか確認してください。  
この表記がなく、「Cleaning up ...」と表示されている時には、「ファイル システム エラーを自動的に修復する」のみにチェックして、「... no problems.」が記録されるまで、エラーチェックを何回か繰り返してください。



(表示例)

-----  
Checking file system on c:

... (中略)

Windows will on check the disk.

Windows has checked the file system and found no problems.

\*\*\*\* KB total disk space. (以下略)

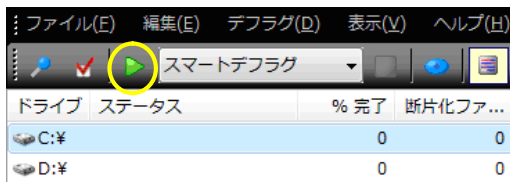
-----

## 4-6 ディスクの手動デフラグ

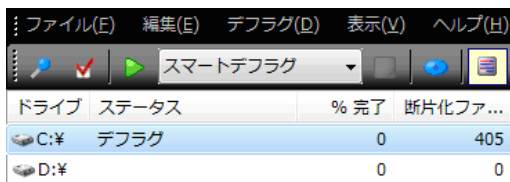
- (1) デフラグしたいドライブが「モニタリング」状態の時には、ツールバーの「停止」ボタン(赤い四角のアイコン)をクリックして、モニタリングを停止します。



- (2) ツールバーの「開始」ボタン(緑の三角のアイコン)をクリックします。

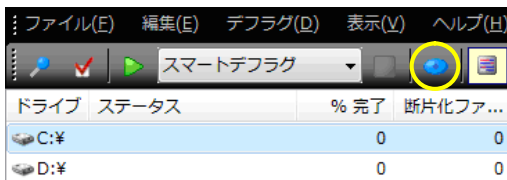


- (3) ステータスが「デフラグ」に変わり、ドライブの最適化が開始されます。断片化やディスクの使用容量が多い場合は時間がかかります。

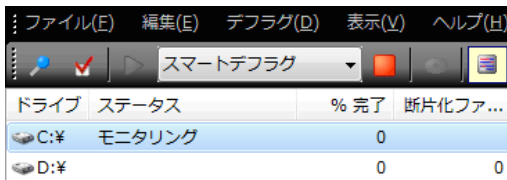


## 4-7 モニタリング モード

- (1) 選択したディスクが停止状態のとき、ツールバーの「モニタ」ボタン(目の形をしたアイコン)をクリックします。



- (2) ステータスが「モニタリング」に変わり、選択したドライブがバックグラウンドでの監視モードに入ります。

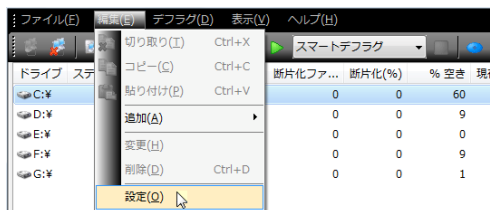


**注意:** 選択したドライブが「停止」状態で「LB デフラグ ワークス 3 Server」を終了すると、そのドライブは監視(モニタリング)状態にはなりません。従って、バックグラウンドでの自動デフラグも行われません。

自動デフラグを行いたい場合は、必ず「モニタリング」モードにしてください。逆にデフラグしたくないドライブは「停止」状態にしてください。

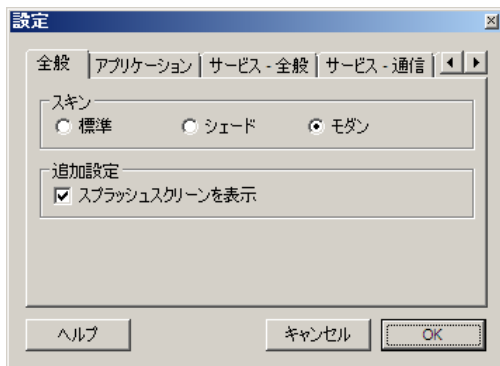
### 4-8 設定について

「編集」メニューの「設定」から「スキンの変更」、「自動起動の設定」、「パスワード設定」など、いろいろな設定の変更を行うことができます。



#### 「全般」タブ

「全般」タブでは、ユーザ インタフェースの外観(スキン)と、スプラッシュ スクリーンについての設定を行います。

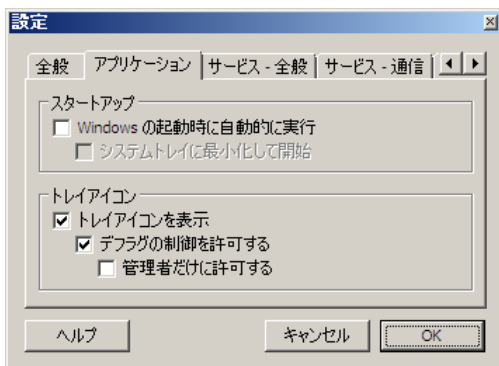


ユーザ インタフェースの外観(スキン)は、3種類の中から選択することができます。

「追加設定」では、スプラッシュ スクリーンの表示/非表示を切り替えることができます。

## 「アプリケーション」タブ

「アプリケーション」タブでは、LB デフラグ ワークス 3 Server の起動設定を変更できます。



「スタートアップ」では、Windows の起動時に LB デフラグ ワークス 3 Server を自動的に起動するかどうかと、起動する場合にシステムトレイに最小化して起動するかどうかを設定できます。

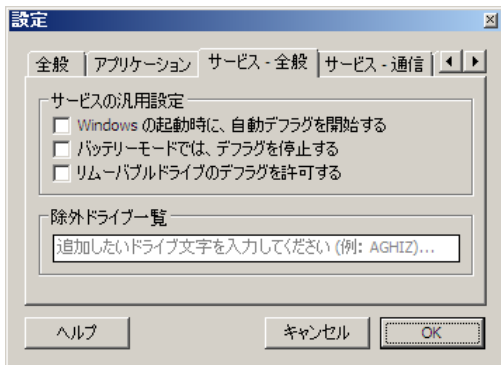
Vista 環境で「スタートアップ」の設定を変更する場合には、LB デフラグ ワークス 3 を一旦終了してから、「管理者として実行」する必要があります。

「トレイアイコン」では、システムトレイにアイコンを表示するかどうか、アイコンから LB デフラグ ワークス 3 Server の機能にアクセスできるようにするかどうかを設定できます。管理者権限のあるユーザでログオンしている時だけ、アイコンからのアクセスを許可するようにも設定できます。

### 「サービス - 全般」タブ

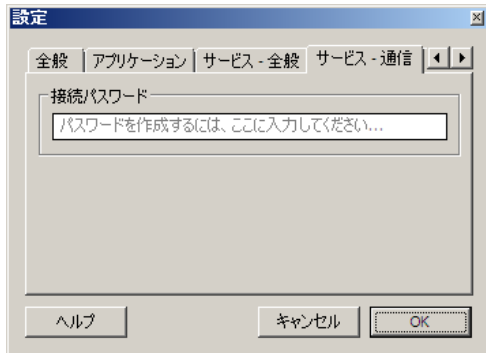
「サービス - 全般」タブでは、Windows の起動時に自動デフラグを実行するかどうかを設定できます。他にも、ノート PC の場合に、バッテリー動作時にはデフラグを停止する設定や、リムーバブルドライブのデフラグを許可するかどうかの設定を行うことができます。

デフラグ対象から除外するドライブを設定することも可能です。



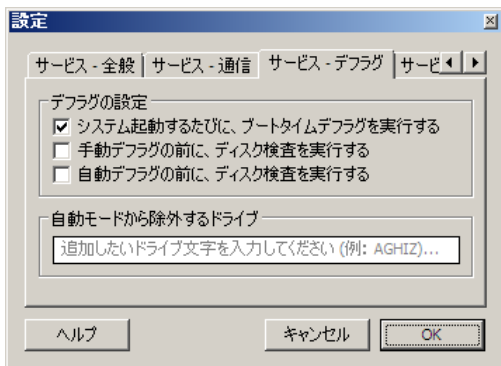
### 「サービス - 通信」タブ

「サービス - 通信」タブでは、このデフラグサービスに対してアクセスする際に、パスワードを要求するように設定することができます。



## 「サービス - デフラグ」タブ

「サービス - デフラグ」タブでは、システムの起動時に毎回ブートタイム デフラグを行うかどうかと、デフラグを実行する前にディスク検査を実行するかどうかを設定することができます。



「システム起動するたびに、ブートタイムデフラグを実行する」を有効にすると、Windows の起動時に毎回ブートタイムデフラグを実行します。この項目は、設定ウィザードのステップ 3/5 でも変更できます。

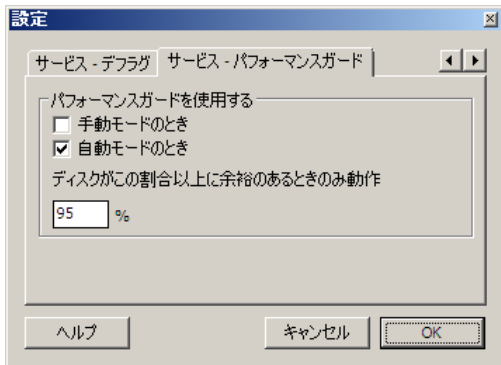
「手動デフラグの前に、ディスク検査を実行する」を有効にすると、手動デフラグを実行する際に、自動的にディスク検査を行ってから、デフラグ処理が開始されます。

「自動デフラグの前に、ディスク検査を実行する」を有効にすると、自動デフラグの際に、ディスク検査を行ってから、デフラグが実行されます。

「自動モードから除外するドライブ」欄には、自動モードの対象から外したいドライブのドライブ文字を入力します。

### 「サービス - パフォーマンスガード」タブ

パフォーマンスガードは、CPU やディスクの空き時間などの、コンピュータの利用可能なリソースを監視し、十分な余裕のあるときのみデフラグを行う仕組みです。デフラグを最高速度で行うには、チェックボックスのチェックを外してください。アプリケーションの動作を阻害しないようにデフラグを行いたい場合には、両方のチェックボックスにチェックを入れてください。



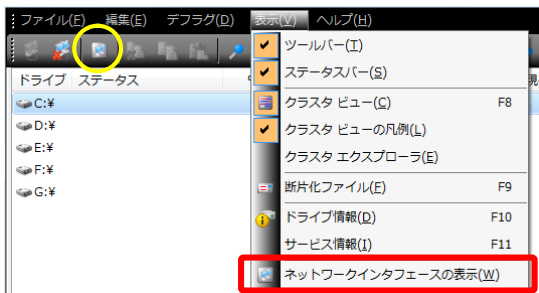
「ディスクがこの割合以上に余裕のあるときのみ動作」の「95%」とは、ディスクの動作していない時間が 95% 以上のときのみ、デフラグを行うということです。数値を減らすことで、デフラグの優先度を高めることができます。100 以上の数値を入れた場合には、設定は無視されます。この場合、ディスクのアクセス待ち数のみを使用して、動作をコントロールします。

## 4-9 リモート PC の登録と接続(Pro 版/Server 版)

「LB デフラグ ワークス 3」の Pro 版及び Server 版は、ローカル PC 上のデフラグを実行する以外にも、ネットワーク越しに遠隔操作でリモート PC のデフラグを行うことができます。ネットワーク越しのリモート PC のデフラグは、「ネットワーク インタフェース」経由で実行されます。ネットワーク インタフェースは、インターネットで広く利用されている汎用的な通信技術である、TCP/IP を利用しています。これにより、「LB デフラグ ワークス 3」は、物理的に離れた場所にあるリモート PC の最適化作業を、ローカルエリア ネットワーク内に限らず、インターネット越しにも実行させることができます。

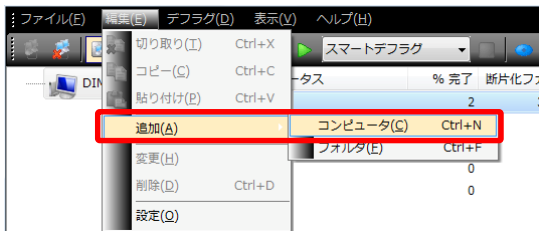
## リモート PC の登録

- (1) ツールバーの「ネットワーク インタフェースを表示」アイコンをクリックするか、「表示」メニューの「ネットワーク インタフェースの表示」を選択して、ネットワーク インタフェースを表示させます。

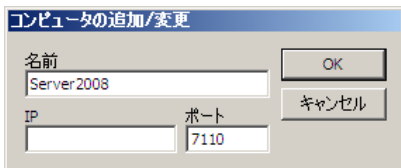


## 第4章 LB デフラグ ワークス 3 Server の使い方

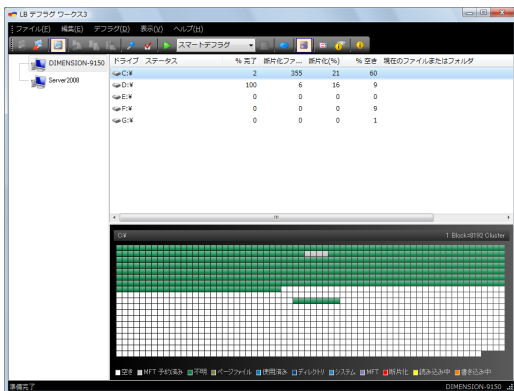
- (2) 「編集」メニューの「追加」-「コンピュータ」をクリックします。



- (3) リモート接続するコンピュータの名前を「名前」欄に入力します。同一 LAN 内でリモート接続する場合は、「IP」欄は省略できます。それ以外の場合には、「IP」欄に IP アドレスを入力します。

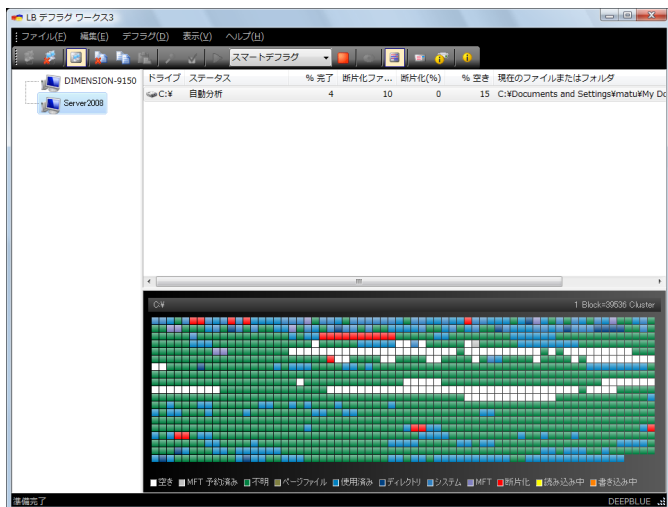


- (4) 「OK」ボタンをクリックすると、「ネットワーク インタフェース」にリモート PC が登録されます。



## リモート PC との接続

登録したリモート PC をクリックすることにより、接続が開始されます。接続が確立されると、リモート PC のドライブ情報が表示されます。



リモート PC の「LB デフラグ ワークス 3」にパスワードが設定されている場合は接続時にパスワードの入力が必要になります。リモート PC への接続ができない場合には、リモート接続で標準で使用される TCP ポート番号 7110 が、ファイアウォールによって遮断されていないか確認してください。

【メモ】 多数の PC を管理する場合は、各グループ毎にフォルダを作成し、その中にコンピュータ名を登録すると管理が容易になります。

### 4-10 使用上の注意点

USB や IEEE1394 接続の HDD、また、USB メモリや MO などのリムーバブル メディアを利用しており、それらを取り外す場合、いくつかの注意点があります。

設定ウィザードのステップ 4/5 で「Windows の起動時に、自動デフラグを開始する」の設定を行うと、すべてのハードディスク ドライブを、自動的にモニタリングモードに設定します。モニタリングモードでは、ハードディスクへのアクセスが断続的に発生するため、常に使用中の状態になり、取り外しができません。

ドライブやメディアを取り外すには、LB デフラグ ワークス 3 を起動して、該当するドライブのモニタリングを停止してください。モニタリングを停止するには、対象ドライブを選択後、「デフラグ」メニューの「停止」を選択するか、ツールバー上の「停止」ボタンをクリックしてください。

毎回この手順を行うのが面倒な場合には、該当ドライブのモニタリングモードを永続的に停止します。設定の「サービス - デフラグ」タブにある『自動モードから除外するドライブ』で、そのドライブに割り当てられる可能性のあるドライブ文字を指定してください。詳しくは、ヘルプの「設定」のページを参照してください。

また、設定の「サービス - 全般」タブにある『リムーバブル ドライブのデフラグを許可する』を OFF にして、リムーバブル メディアを認識させないようにする方法を選ぶこともできます。

## **LB デフラグ ワークス 3 Server 利用ガイド**

---

2009 年 2 月 10 日

第 1 版 第 1 刷発行

(非売品)

著作 mst Software GmbH

編集 株式会社ライフポート

発行所 株式会社ライフポート

東京都千代田区神田神保町 2 - 2 - 34

© 2005-2009 mst Software GmbH

---

Printed in Japan 落丁、乱丁はお取替えいたします。